



第1回 2月24日(水) 13:30 - 15:00

コロナ後の都市・自然・DX

隈 研吾

「集中」を目指して古代ローマ以来進化してきた都市と建築が、最終的に人間と自然を引き離しコロナというパンデミックを引き起こしたのではないか。DXと新しい建築デザインとのコラボによって、「集中」という流れを「分散」へと転換し、「都市へ」という流れを「自然へ」という流れに転換できないか。実際の隈研吾の作品を通じて、その可能性について考える。



Photo © J.C. Carbone

第2回 3月3日(水) 13:30 - 15:00

建築のニューノーマル

坂村 健 × 隈 研吾

手洗い所を増やす、非接触スイッチを使う、抗ウイルス建材の利用、空調での換気機能の強化など、新型コロナが具体的に建築に課した課題は多い。また、そのような要素技術だけでなく三密回避前提のプランや、さらには人が集まり仕事するというオフィスビルの存在意義というレベルまで——建築にはニューノーマルが求められるようになるだろう。

また、新型コロナは社会活動のすべての面のDXを、日本ですすめるきっかけとなった。BIMに始まるヴァーチャル空間の中での建築物の「デジタルツイン」化の流れは、建築業のDXというだけでなく建築物運用のDXの基盤でもあり、災害やパンデミックという「想定外」の事態に素早く対応するための有事対応のDXにもなる。両氏の対談から、それらがニューノーマルとなる建築と建築業の将来像について考える。



第3回 3月10日(水) 13:30 - 15:00

KKAA (隈研吾建築都市設計事務所) におけるDX

松長 知宏 (隈研吾建築都市設計事務所 設計室長) 十

Ong Yong Siang (隈研吾建築都市設計事務所 3D Programming)

KKAAでは設計においてどのようにデジタルテクノロジーを用い、またデジタルテクノロジーによってどのような形態、素材が可能になってきたかを、実例を交えながら解説する。また、建築設計以外の分野でもKKAAでは様々な形で (例えば校舎を持たないヴァーチャルスクール、建物を持たないヴァーチャルミュージアム、NHKとのコラボによる動く実写VR) ヴァーチャルな空間とリアルな空間を接続させるプロジェクトに携わっており、その可能性についても解説する。